町医者だより

平成21年06月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
１分ミスタードーナツ並び
スーパーつるかめ（旧フレック）2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

大人の百日咳

今年の5月22日付け朝日新聞に「百日ぜき　大人で急増」というタイトルの記事が載っていました。あまりにも混乱を招く内容に驚いてしまいました。今月は大人の百日咳の話です。

記事の中での百日咳を疑う症状とは

百日咳は百日咳菌というグラム染色陰性の桿菌による感染症です。記事の中で百日咳を疑う症状として①2週間以上咳が続く、②突然起こる「発作性」がある、③咳に伴って嘔吐がある、④咳込んだ後にヒューヒューと笛のような音が出る、⑤普通の咳止めではなかなか止まらない、⑥家族や職場など周囲に最近咳が止まらない人がいた、の5項目を挙げています。気管支喘息で通院されている方は特にお分かりだと思いますが、これら5つの症状はまさに喘息の症状でもあります。すなわち、症状からは百日咳かどうかわからないのです。⑥などは、症状の悪化は不思議と皆さん似たような時期に起こります。喘息の患者さんが調子悪い時に職場で咳している同僚がいたら、その人もたぶん喘息ですよ、と私は話しています。

診断のための検査

記事には34歳の女性が12月から咳が出て初めて咳が止まらず翌年2月にかかりつけの医院で血液検査をしてもらった結果、百日咳の抗体価が上がっていて、最近百日咳にかかったと診断され抗生剤を飲んで約2週間で咳がおさまったと述べています。実はここにも誤りがあります。まず、わが国で検査できる百日咳抗体検査は細菌凝集反応とEIA法のみで、百日咳感染の診断には急性期と2－4週間後の回復期の2回採血（ペア血清）で抗体価の上昇が4倍以上あることを確認する必要があります。すなわち1回の採血では決められないし決めてはいけないのです。何故か。それは多くの人が以前に三種混合（DTP)ワクチンを接種しているため、血清中に抗体がすでに存在しているからです。このペア血清による確認作業をちゃんとやっている医療機関が本当に少ないです。ですから大人の百日咳がどれ位増加しているのか正確な情報が少ないのです。

世界の主流はPCR検査

新型インフルエンザの報道でたびたび目にする米国疾病管理センター（CDC)のガイドラインでは、予防接種を受けている人では持っている抗体価にばらつきがあるため百日咳の診断法としていかなる抗体検査も推奨しないと明記し、百日咳菌の遺伝子を検出するPCR法を標準検査としています。ただし、この検査は非常にコストがかかるため、お金にシビアな英国では百日咳毒素IgG抗体価（日本にはない）を測定しているようです。

マクロライド系抗生剤は喘息症状をも改善する

先の34歳女性は約3ヶ月で咳が止まったようですが、喘息も不思議なことに無治療でも2－3ヶ月で咳が止まります。百日咳に対して選択する抗生剤にクラリシッド、クラリス、ジスロマックなどのマクロライドと呼ばれる抗生剤があります。実はこれらの抗生剤が喘息の気道過敏（多くは咳症状）を改善している可能性がいくつかの論文で指摘されています。先の女性は喘息だった可能性もあり、呼吸機能検査やアレルギー採血も行うべきだったと考えます。